

## ダム放流設備改修工事

ダム放流設備改修工事において、既設RC構造物と硬岩盤の同時撤去が必要となったが、大型重機の配置が困難であり難工事となりました。

そのため、放電破碎工法を適用し、工期短縮と施工精度の向上を図りつつ、RC構造物と硬岩盤撤去を実施しました。

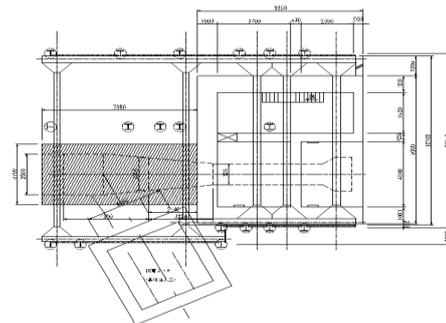
既設配管や既設構造物への影響が少なく、厳密な精度管理の下、当初の予想工程を大幅に短縮し、新設放流管の設置へと工事を引き継ぎました。

施工主：近畿農政局  
 注文主：日立造船鉄構(株) 機械設備工事  
           ：(株)中総組 土木工事  
 工事名：大迫ダム放流設備改修工事  
           ：ダム改修（大迫ダム放流設備）工事  
 場所   ：奈良県吉野郡川上村（大迫ダム直下流）



狭隘な施工条件

- ・ 施工時期 平成19年12月～平成20年2月
- ・ 工期 70日間
- ・ 施工数量 RC構造物 435 m<sup>3</sup>
- ・ 岩盤（中硬岩） 250 m<sup>3</sup>
- ・ 施工深さ 10 m
- ・ 一日最大放電回数 30回



大型重機の配置困難



厳密な施工管理

# ダム放流設備撤去手順（放電破碎工法）



0 施工前



4 防爆・防音シート養生



1 削孔工



5 放電破碎



2 カートリッジ装填



6 破碎完了



3 シート養生



7 施工後